

2023年度 環境経営レポート

2023年4月～2024年3月



作成：2024年 5 月 13 日

改訂：2024年 5 月 29日

改訂：2024年 6月 5日

日本特殊硝子株式会社

岐阜県海津市平田町幡長401

TAL 0584-67-3888

FAX 0584-67-3219



JAPAN TEMPERED & LAMINATED GLASS CO.,LTD

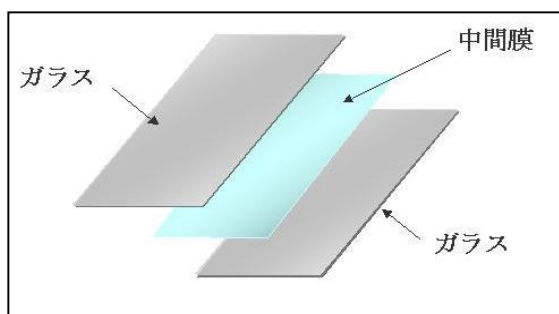
目次

項目	頁番号
1. 登録事業所の概要と対象範囲	1
2. 環境経営方針	2～3
3. 環境経営目標と実績	
3-1. 2023年度環境経営計画	4
3-2. 2023年度環境経営計画評価	5
3-3. 2023年度環境経営目標と実績	6
4. 実施体系図	7
5. 取組の結果と評価及び次年度の取り組み	
5-1. 二酸化炭素排出量の維持、削減	8～9
5-2. 水資源使用量の維持・削減	10
5-3. 廃棄物排出量の削減	11
5-4. 化学物質の使用量抑制と管理	12
5-5. 製品及びサービスにおける環境配慮	12
5-6. グリーン購入の推進	13
6. 環境活動	14
7. 法令確認	15
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示	16

1. 登録事業所の概要

- 1) 事業所名及び代表者名
日本特殊硝子株式会社
代表取締役社長 上野 誉
- 2) 所在地
本社・工場 : 岐阜県海津市平田町幡長401
岐阜センター : 岐阜県海津市平田町幡長字川原336-2
厚木センター : 神奈川県伊勢原市東成瀬34-16
福岡センター : 福岡県京都郡苅田町大字尾倉3347-1
- 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 : 管理G長 田口 実(本社)
事務局 : 管理部管理G 伊藤 浩二(本社)
TEL:0584-67-3888 (本社) FAX:0584-67-3219 (本社)
- 4) 事業内容(認証・登録の活動範囲)
安全硝子の製造・販売(合わせ硝子・強化硝子)
 - ・ 当社では、皆様に安全に、また安心して生活をしていただけるよう車両用安全ガラスを製造しております。合わせ用ガラスには、遮熱・遮音ガラス、シェード付きガラス、熱線(デアイサー)付きガラスが有ります。強化ガラスは、リアガラスを製造しています。

<合わせガラスとは>



<車両合せガラス>



- 5) 事業の規模
資本金 4,000万円
従業員 92 名
敷地面積 22,596㎡ (床面積 10,232㎡)
内訳・工場 17,074㎡ (床面積 7,084㎡)
 - ・岐阜センター 3,951㎡ (床面積 2,444㎡)
 - ・厚木センター 330㎡ (床面積 330㎡)
 - ・福岡センター 1,241㎡ (床面積 374㎡)

2. 対象範囲

- 1) 事業年度
4月～翌年3月末までになります。
- 2) 登録事業所の範囲について
本社・工場、厚木センター、福岡センター、岐阜センターの4事業所を登録しています。
全組織・全活動としています。

【経営理念】

“創造と挑戦”

全員の創意工夫を集結し、失敗を恐れず挑戦し続ける。

【経営方針】

1. 品質マネジメントシステムを確立し、それを維持・継続させることにより、高品質な製品とサービスを、お客様に提供し、お客様満足度の向上を図っていく。
2. 品質・コスト・商品開発・納期対応等において、お客様満足度の向上を目指して、全員が協力して取り組み、チャレンジしていく。
3. 製品製造や販売・サービス等の企業活動を行う上で、環境・安全衛生を含む法令や規制を遵守すると共に、当社及び従業員が地域社会の一員としての役割と責任を果たしていく。

2022年2月1日制定
日本特殊硝子株式会社
代表取締役社長 上野 誉

2023年度 環境経営方針

当社の経営理念、経営方針に基づき、環境経営方針を以下の通り定める。

1. 環境保全

開発から製造、物流、使用、最終消費、リサイクルを経て廃棄に至るすべての過程における活動が与える環境への影響を把握し、環境負荷の低減活動を推進する。

<重点実施項目>

- 1) エコアクション21に沿った活動の推進
- 2) 地歴情報の整理、まとめの実施

2. 未然防止・リスク対応

問題発生の未然防止に努め、問題が発生した際には真因分析を適切に行い再発防止に努める。

<重点実施項目>

- 1) 産業廃棄物に関する契約内容の確認と必要に応じた見直しの実施
- 2) 老朽化設備の改善や保全計画策定等による環境影響リスク低減活動の実施
- 3) 三現主義(現場、現物、現実)に基づいた対策の有効性確認と継続的改善の実施

3. 法令遵守と継続的改善

- (1) 環境関連法令や各種規制の内容を正確に把握し、確実な対応を行う。
- (2) 規程・基準等のルールに基づき活動し、継続的改善に努める。
- (3) 社内レビューにより問題認識とアクションの明確化を行い全社員が意識して行動する。

<重点実施項目>

- 1) 環境関連法令該当設備の確実な届出と適切な管理の実施
- 2) 土壌汚染対策法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法及びその他の環境関連法規、各種規制、社内規程類の従業員一人ひとりへの周知と教育の実施
- 3) 法令の改正情報の入手・更新の仕組みの確立

4. コミュニケーション

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを積極的に行う。

<重点実施項目>

- 1) 地域からのご意見ご要望に対し、継続的対応と改善の実施
- 2) セントラル硝子RC監査の受審と指摘事項に対する改善の実施

2023年4月1日
代表取締役社長
上野 誉

3. 環境経営目標と実績

3-1. 2023年度環境経営計画

2023年度 環境経営計画

項目	活動内容	責任者
CO ₂ 排出量の削減 (省エネルギー)	不必要照明の消灯活動の継続	環境管理者
	事務所、食堂、工場休憩室等のエアコンは設定温度での運転を徹底する。	環境管理者
	日常点検、自主点検、定期点検を実施し、設備を適切な状態に保つ。	製造部G長 技術G長
	CO ₂ 排出量1,920,700kg-CO ₂ 以下(月 目標 160,058kg)	環境管理者
水使用量の削減	不必要時は、蛇口・バルブを閉める。閉め忘れ防止のための啓発活動の継続	環境管理者
	水使用量113,020m ³ /年以下の目標(4月～9月 目標10,360m ³) (10月～3月 目標 8,477m ³) 上期と下期で使用量の傾向が違う為分けて設定	環境管理者
廃棄物の削減 (省資源)	処理工程の切断カレットを回収し、有価物として売却する活動の継続。2023年7月より、前処理工程以降で発生するカレットについても回収開始。	製造部1G長 管理部G長
	インク付着ゴミの排出での分別を意識付けすることで、使用済みネル布等のリユース活動を継続する。 インク付着ゴミと一般可燃物の分別を徹底し、インク付着ゴミをリサイクル推進	製造部1G長
	中間膜フィルムの回収をして、余分な廃棄物の発生を抑制する。 回収したフィルムは、フィルムメーカーにてリサイクルする。	製造部2G長
	リサイクル率80.4%/年以上のリサイクルを目指す。	環境管理者
	産業廃棄物の削減(133トン以下) 年間と通し評価する	環境管理者
化学物質使用量抑制及び管理	目標継続し水分量を削減し排出	管理部G長
製品・サービスにおける環境配慮	PPバンドとストッパーの再利用をして廃プラゴミの排出の減少をする。	製造部3長 管理部G長
地域貢献	周辺地域清掃、地域貢献活動を実施する。	環境管理者
環境関連教育	環境法令に関する従業員に対する教育を実施する。(環境E-ラーニング)	環境管理者
環境関連法規の遵守状況チェック	環境関連法規の遵守状況、最新版管理を実施する。	管理部G長
環境活動レポート	EA21環境活動レポート作成・公表	管理部G長
緊急事態対応訓練	環境上の緊急事態に対応するための訓練を実施する。 ※内容については随時計画	管理部G長
進捗報告	マネジメントレビューにて活動の報告を実施。	管理部G長

3-2. 2023年度環境経営計画評価

2023年度 環境経営計画評価

項目	活動内容	実施者		評価
CO ₂ 排出量の削減 (省エネルギー)	不必要照明の消灯活動の継続	全社		○
	事務所、食堂、工場休憩室等のエアコンは設定温度での運転を徹底する。	全社		○
	日常点検、自主点検、定期点検を実施し、設備を適切な状態に保つ。	製造部		○
	CO ₂ 排出量1,920,700kg-CO ₂ 以下(月目標 160,058kg)	全社	実績 評価	1,776,922 ○
水使用量の削減	不必要時は、蛇口・バルブを閉める。閉め忘れ防止のための啓発活動の継続	全社		○
	水使用量113,020m ³ /年以下の目標(4月～9月 目標10,360m ³) (10月～3月 目標 8,477m ³) 上期と下期で使用量の傾向が違う為分けて設定	全社	実績 評価	101,059 ○
廃棄物の削減 (省資源)	処理工程の切断カレットを回収し、有価物として売却する活動の継続。2023年7月より、前処理工程以降で発生するカレットについても回収開始。	製造1G 前処理 / 管理部		○
	インク付着ゴミの排出での分別を意識付けすることで、使用済みネル布等のリユース活動を継続する。 インク付着ゴミと一般可燃物の分別を徹底し、インク付着ゴミをリサイクル推進	製造1G 印刷		○
	中間膜フィルムの回収をして、余分な廃棄物の発生を抑制する。 回収したフィルムは、フィルムメーカーにてリサイクルする。	製造2G		○
	リサイクル率80.4%/年以上のリサイクルを目指す。	全社	実績 評価	82.6% ○
	産業廃棄物の削減(133トン以下) 年間と通し評価する	全社	実績	103
化学物質使用量抑制及び管理	目標継続し水分量を削減し排出	管理部		△
製品・サービスにおける環境配慮	PPバンドとストッパーの再利用をして廃プラゴミの排出の減少をする。	3G・管理G		○
地域貢献	周辺地域清掃、地域貢献活動を実施する。	全社		○
環境関連教育	環境法令に関する従業員に対する教育を実施する。(環境E-ラーニング)	全社		○
環境関連法規の遵守状況チェック	環境関連法規の遵守状況、最新版管理を実施する。	管理部		○
環境活動レポート	EA21環境活動レポート作成・公表	管理部		○
緊急事態対応訓練	環境上の緊急事態に対応するための訓練を実施する。 ※内容については随時計画	管理部		○
進捗報告	マネジメントレビューにて活動の報告を実施。	管理部		○

水使用量については、昨年度の代表者の評価・指示事項を踏まえ、季節要因を考慮した年間環境経営計画を作成し、通期で目標を達成しました。

3-3. 2023年度環境経営目標と実績
当社では、表1、表2の環境経営目標を設定しています。

表1:2022年度～2024年度 環境中期目標

項目	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量の維持、削減(注1)	2,074,100 kg-CO2	1,920,700 kg-CO2	1,759,200 kg-CO2
水資源使用量の維持・削減	114,174 m ³	113,020 m ³	100,048 m ³
廃棄物削減(リサイクル率)	リサイクル率77.4%	リサイクル率 80.4%	リサイクル率 83.4%
廃棄物削減(廃棄物排出量)	—	廃棄物排出量133t	廃棄物排出量115t

※2020年度より総排出量・使用量にて目標数値変更
(注1)・・・電力の二酸化炭素換算係数は、2019年度中部電力公表値の 0.426を使用しています。
目標値は、前年の実績を基に次年度の目標値を見直しています。
※中長期計画に記載
※2023年度より、廃棄物排出量の目標値を新たに追加し、リサイクル率と廃棄物排出量で中期目標を定めました。

表2:2022年度～2024年度 環境活動中期目標

項目	目標
化学物質使用量抑制と管理	ガラススラッジの廃棄量を把握し管理する事で、環境負荷の低減をする。
製品及びサービスにおける環境配慮	製品出荷時の緩衝材削減活動継続
グリーン購入推進	事務用品の適合商品購入を日常管理で活動

目標に対する実績を表3・表4に示します。

表3:2023年4月～2024年3月の環境数値実績

項目	単位	目標値(注1)	2023年度実績	評価
二酸化炭素排出量の維持削減	kg-CO2	1,920,700	1,776,922	○
水使用量総量の維持・削減	m ³	113,020	101,059	○
廃棄物削減(リサイクル率)	%	80,4	82,6	○
廃棄物削減(廃棄物排出量)	t	133	103	○

表4:2023年度 環境活動の実績

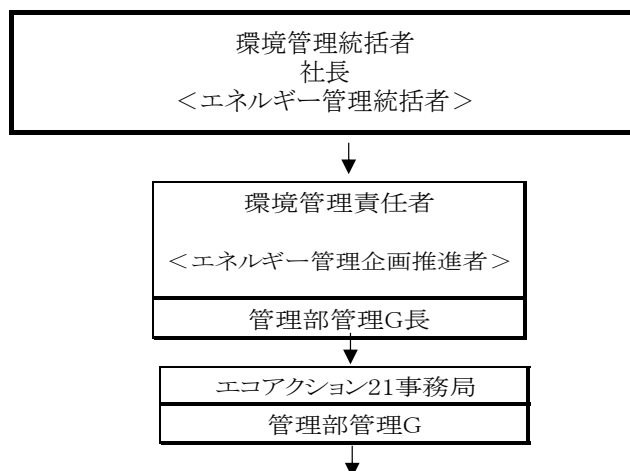
項目	実績
化学物質使用量抑制と管理	2022/07～2023/6の期間で回収したスラッジの乾燥後の重量を測定しました。保管し約1年間乾燥させることで、約15%重量の削減が出来ることを把握
製品及びサービスにおける環境配慮	昨年度の継続を引き続き実施、入荷素板固定用及び再梱包で発生したPPバンドとストッパーを、用途を限定して再利用しました。(実施グループ:製
グリーン購入推進(目標値75%以上)	事務用品でのグリーン購入を引き続き実施。実績値 87.1%

表5:2018年～2023年の実績推移

	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素排出量	kg-CO2	3,318,299	2,849,542	2,353,416	2,080,313	1,945,326	1,776,922
水使用量	m ³	122,770	115,249	120,290	115,327	105,484	101,059
廃棄物削減(リサイクル率)	%	32.3	45.9	61.0	77.1	77.4	82.6
廃棄物削減(廃棄物排出量)	t	999	621	372	188	166	103

(注1)・・・電力の二酸化炭素換算係数は、2019年度中部電力公表値の 0.426を使用しています。

4. 実施体制図



環境管理者 (内1名はエネルギー管理員)	部署長名	業務内容	各グループの活動内容
	製造1G長	前処理、印刷、曲げ	水・電力・LPG使用量の削減
	製造2G長	ガラス貼り合わせ	水・電力・LPG使用量の削減
	製造3G長	検査・包装	梱包資材(廃プラ)の削減と再利用化
	技術Gリーダー	製品の設計、開発	製造及び製品の環境負荷に関する事項
	技術G長	設備の導入・保全	エネルギーの削減、設備のメンテナンス
	営業部G長	営業活動、製品の受注、配送	梱包資材(発泡スチロール)の削減
	岐阜センター長	純正代行業務	梱包資材(発泡スチロール)の削減
	厚木センター長		梱包資材(発泡スチロール)の削減
	福岡センター長		梱包資材(発泡スチロール)の削減
	管理G長	総務・経理・安全衛生・環境	環境活動の取りまとめ ※エネルギー管理員
	品質保証室長	品質保証業務	電力使用量の削減

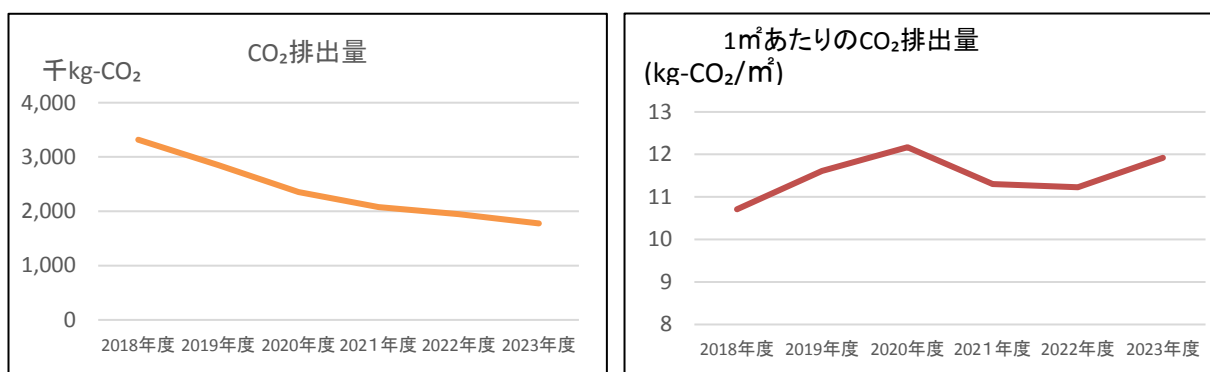
	主な役割、責任及び権限
環境管理統括者 <エネルギー管理統括者>	環境マニュアルに定める範囲に関する業務の統括 経営的視点を踏まえた取組の推進 中長期計画のとりまとめ 現場管理に係る企画立案、実務の実施
環境管理責任者 <エネルギー管理企画推進者>	環境管理統括者の指示の下、定められた業務の実務の責任者としての推進 実務担当者への指導・教育 社内における廃棄物の管理。分別、減量化、リサイクル等を推進。そのための施策の計画立案、推進、把握、廃棄物管理者及び所属担当者への指導・教育
エコアクション21事務局	環境管理責任者の実務を補佐する。
環境管理者 <エネルギー管理員>	所管各部署の環境状態の監視、環境管理責任者の指導及び協力を得て環境マニュアルに定められた業務を行う 所管各部署の廃棄物に関して、環境管理責任者の指導の下、別に定められた要領に基づき廃棄物の管理を行う エネルギー管理員はエネルギーに係る現場管理を行う
全従業員	環境方針を理解し、環境活動に取り組む 省エネ活動に取り組む 産業廃棄物の削減に取り組む

5. 取組の結果と評価及び次年度の取組み

5-1. 二酸化炭素排出量の維持、削減

当社の二酸化炭素削減は、電力の使用量を削減することにはほかならないと認識しております。当社において電力の用途は、製造設備と空調設備の動力が大半となります。そのため電力の使用量削減に向け製造設備関連を重点的に実施しました。

< 結果 >



過去6年間の推移

年度	CO ₂ 排出量 (kg-CO ₂)	1㎡あたりのCO ₂ 排出量 (kg-CO ₂ /㎡)
2018年度	3,318,299	10.71
2019年度	2,849,542	11.61
2020年度	2,353,416	12.17
2021年度	2,080,313	11.31
2022年度	1,945,326	11.23
2023年度	1,776,922	11.92

リフト(他) LPG使用量(kg)

年度	kg
2018年度	8,924
2019年度	7,490
2020年度	3,573
2021年度	2,340
2022年度	1,819
2023年度	1,826

①主な取り組み

- 電力関係：・FAクーラー(制御盤内のボックスクーラー)4台を省エネタイプに更新(2023年6月) 年間15.3千kwh/年の電力削減効果。
 ・合わせ室チラーユニットの夜間運転停止とポンプの低速化を実施(2023年8月) 年間8,772kwh年電力削減効果。
 ・印刷室クーラー更新(2023年11月)年間5.35千kwh/年の電力削減効果。
 ・2023年12月 電力測定機器を主要設備6カ所に設置。電力使用量の把握をし、稼働時間待機時間等計測し電力削減に取り組む。
 ・照明器具の消灯やエアコンの稼働など、不要時の電力削減活動の継続。



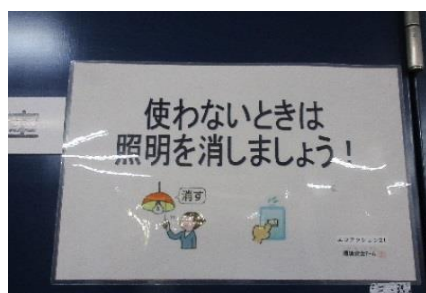
FAクーラー更新



印刷室空調更新



電力量測定器設置



不要時の電力削減

<評価>

- 二酸化炭素削減として、電力関連で削減活動をしました。
 - 常時運転していた合わせ室のチラーユニットの夜間停止、ポンプの低速化により年間8,772kwhの削減が可能となりました。
- 電力量測定器を設置したことにより、不必要時の待機電力等の調査も可能となり、今後の活動に活かしていきます。また、老朽設備、FAクーラー、印刷室空調の更新により電力量が抑えられる体制を進めました。
- 福岡センターのフォークリフトをLPG仕様からバッテリー車に更新。(2023年8月)
 - 電力使用量の削減を進めましたが、原単位は悪化(2022年度11.23kg-CO₂/m²、2024年度11.92kg-CO₂/m²)しました。これは、生産効率の良い設備(No2連炉)をヒーター増強工事の為、2023年11月以降使用を止め、別の設備(単炉)を使用したためです。
- また、製品の構成差によりガラスが大きくなっている(1枚当たり1.50m²から1.52m²)ことから、オートクレーブの積載効率の悪化も原単位低下につながりました。

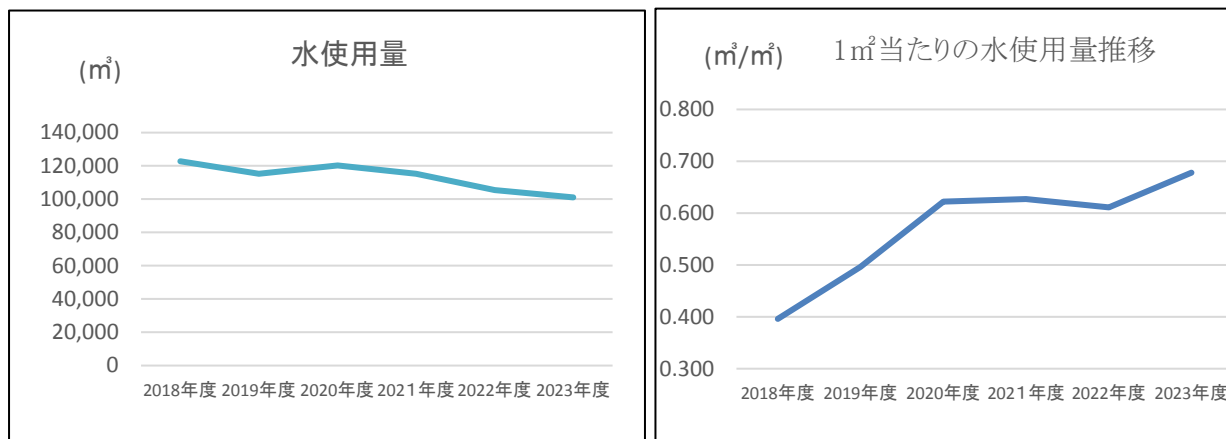
次年度の取組み

- No2連炉の稼働率をアップし、電力量の削減を図る。

5-2. 水資源使用量の維持・削減

当社の水資源使用の比率としては、地下水が約99%を占めている。
地下水は設備の稼働、温水の供給、空調機設備の稼働に使用。
水道水はそれ以外の水回り(生活水)で使用。

<結果>



過去6年間の推移

年度	水使用量	1㎡当りの水使用量
2018年度	122,770	0.396
2019年度	115,249	0.496
2020年度	120,290	0.622
2021年度	115,327	0.627
2022年度	105,484	0.611
2023年度	101,059	0.678

① 主な取り組み

2023年度も、昨年と同様に排水の再利用として、オートクレーブで使用した水を前処理工程に供給し再利用を継続実施。
日常的には、水道水の節水啓発活動、水関連設備の日常点検を継続実施する事で、漏洩や突発な設備トラブルが無いかの確認を継続実施しました。
報告は、毎月開催される安全衛生委員会で二酸化炭素排出量、電気使用量、水使用量を含む環境データを報告し周知しました。

<評価>

- 年間水使用量の目標達成。昨年までは、年間目標を12か月で単純に振り分けし達成度を把握していましたが、今期は、使用量の多い上期と使用量の少ない下期で目標数値を振り分けて目標値の設定をした。上期、下期、通期で設定した目標値を達成しました。
- 水使用量の削減は目標達成出来ましたが、原単位は悪化しました。これは、オートクレーブの稼働時間と自動切断機の稼働時間のズレが大きくなり、オートクレーブで使用した再利用水以上に水を使用した為です。

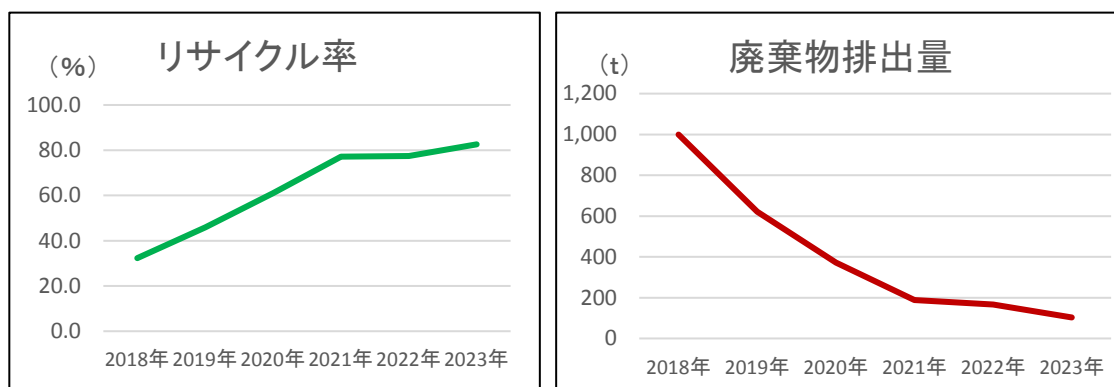
次年度の取組み

- 水使用量の目標値は、年間のトレンドを反映し上期と下期で実績にあった数値設定をする。また、半期で目標値の評価をして目標変更が必要な場合は見直しを実施する。
- 自動切断機のOEE(設備総合効率)を2%改善する事でオートクレーブの稼働時間とのズレを少なくする。
- 全社的に節水意識を持ち、設備・人の両面で改善を図る。
- 異常値の早期発見をする為、漏洩、設備トラブルが無いか日常で管理監視を実施します。

5-3. 廃棄物排出量の削減

当社の廃棄物は、主にガラス屑と廃プラ、汚泥、木屑になります。
汚泥の廃棄は約2年に1回。木屑の廃棄は、約1年に1回となります。
年間を通し、多く廃棄するのはガラス屑と廃プラになります。
その他として、事業系一般廃棄物の可燃ごみが有ります。

<結果>



①主な取り組み

昨年同様にガラス屑と工程内で発生した合わせ不良品をリサイクルする活動に加え、2023年7月より、未合わせカレットを有価物化したことでリサイクル率が向上しました。(約28t、約4.8%影響)
又、PPバンドとストッパーの再利用活動も継続実施しました。



ガラス屑リサイクル



ガラス屑追加リサイクル



合わせガラス屑のリサイクル



PPバンドとストッパーの再利用

<評価>

2023年度は、ガラス屑(401.8t、昨年440.3t)、合わせ不良(80t、昨年125.9t)、生産量の減少及び生産歩留り向上により排出量は減少となりました。また、未合わせカレットの有価物化により、廃棄物は昨年度166tから133tに減少。リサイクル率も昨年度77.4%から82.6%へ向上しました。

次年度の取り組み

- ・廃棄物排出量の削減活動継続
- ・現状廃棄処理している物を再度見直し、リサイクル・リユースできないか改めて検討。
- ・ガラスのリサイクル化を継続活動。
- ・PPバンドストッパーの再利用を継続活動。

5-4.化学物質の使用量抑制と管理

<活動>

中期目標の一環として化学物質使用量と排出量の削減に取り組んでおり、その一環として2022年度より前処理工程にて発生するスラッジの廃棄量の削減活動を継続実施しています。2022年8月～2023年7月期間で回収したスラッジの重量と、乾燥後の重量を測定して、乾燥による重量の削減効果と、計画した年間廃棄量との比較を実施しました。

スラッジ				
排出直後の重量	乾燥後の重量	水分削減量	削減効果	目標値 t/年
1.36t	1.15t	0.21t	15.4%	1.08t

※1)2022年7月～2023年6月の期間に 回収したもの

<評価>

2022/07～2023/06の1年間の排出量は1.36tでした。保管し約1年間乾燥させることで、乾燥後の重量は1.15tとなり、約15%の重量削減となることが分かりました。2023年度は、廃棄が無く2025年度の廃棄予定の為、最終結果は判定できないので、乾燥後の重量を廃棄量と見做しました。さらに、2年間保管する事で、乾燥が進み見直した目標値が正しいか精査します。

次年度の取組み

排出したスラッジの重量測定と乾燥後の重量測定を継続し、計画した年間廃棄量と比較する。

5-5. 製品及びサービスにおける環境配慮

<活動>

製品梱包時に緩衝材として使用される発泡スチロール削減、PPバンドの再利用活動を継続。
ストッパーは、抑えが破断していいない物を使用。



発泡スチロールの再利用



ストッパーを回収して再利用



PPバンド、ストッパーの再利用

<評価>

活動の結果、廃プラの産業廃棄物量が、昨年より約13%(4.7t)削減。
長年の削減活動が定着した結果と思われ、今後も、日常管理として活動を継続。

次年度の取組み

次年度も、PPバンドストッパーの再利用を継続。
今後も、リサイクル活動を継続し廃プラの削減に努める。

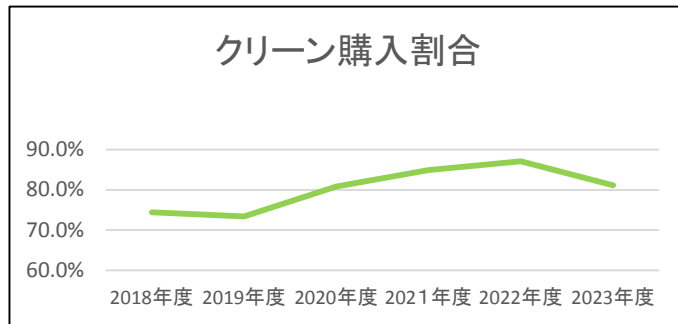
5-6.グリーン購入の推進

<活動>

2023年度も事務用品のグリーン購入品の推進活動を継続。
現在購入している品がほぼグリーン購入品に変更。今後は維持と日常管理とし、
代替え品購入の場合は調査し選定する。

<評価>

<購入割合推移>



グリーン購入目標 75%以上達成。

次年度の取組み

現在購入しているグリーン購入対象外品を調べグリーン購入品へ移行できるか精査する。

6.環境活動

年に1回、地域清掃活動を実施しています。
2023年11月16日に15名が参加し、本社・工場周辺の清掃を実施しました。



＊青線と赤線の範囲を2班に分かれ実施しました。

7. 法令確認

- 環境法令法規のチェックシートの法改正確認は、年1回 8月に法改正の確認と遵守状況の確認を行い、法令違反は有りませんでした。また、訴訟などの発生ありません。加えて、親会社であるセントラル硝子からの法改正等の情報提供があった場合は、その都度、社内展開して更新しております。

① 環境関連法規の改訂等の状況チェック法令

＜適用される法規制＞

水質汚濁防止法

廃掃法

騒音規制法

振動規制法

フロン排出抑制法

岐阜県公害防止条例

省エネ法

PRTR法

温対法

下水道法

消防法

高圧ガス保安法

平田町公害防止協定

土壤汚染対策法

毒物及び劇物取締法

環境教育等促進法

循環型社会形成推進基本法

家電リサイクル法

神奈川県伊勢原市条例

福岡県京都郡条例

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

全体評価	評価
① 環境経営方針	○
② 環境経営目標及び環境経営計画	○
③ 実施体制	○

CO2排出量、未使用量及び廃棄物削減の各項目は生産性の向上とリンクしており、生産性が上がった当年度の実績を反映して目標達成した結果と言えるが、生産ライン単位では生産性が上がっているにも関わらず会社全体で見るとCO2、水共に原単位が悪化している。これは生産ライン間の効率的な生産計画・管理が出来ていなかったことを示唆しており、次年度以降の課題と言える。当年度稼働実績が低かったNo.2連炉の積極稼働や、各工程間のロスが少ない生産(清流生産)を基本に、エネルギー、排出物を強く意識した活動を計画展開すること。

リサイクル率アップ、グリーン調達度アップについては新しいアイテムの創出が遅れており、現状に満足することなく更に向上させる為のアイテム探索に注力すること。